



## 2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年11月9日

上場会社名 明治ホールディングス株式会社 上場取引所 東  
コード番号 2269 URL <https://www.meiji.com>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 CEO (氏名) 川村 和夫  
問合せ先責任者 (役職名) コーポレートコミュニケーション部長 (氏名) 田中 正司 TEL 03-3273-3917  
四半期報告書提出予定日 2023年11月10日 配当支払開始予定日 2023年12月6日  
四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
四半期決算説明会開催の有無：有（アナリスト・機関投資家向け）

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年3月期第2四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	546,047	5.5	44,443	2.9	43,433	△1.1	27,921	△16.4
2023年3月期第2四半期	517,520	3.4	43,193	△14.2	43,912	△15.2	33,386	△8.9

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 48,185百万円(△15.9%) 2023年3月期第2四半期 57,323百万円(15.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	100.13	—
2023年3月期第2四半期	118.52	—

(注) 当社は2023年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第2四半期	1,207,796	786,685	61.7	2,670.17
2023年3月期	1,136,217	751,311	62.7	2,553.69

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 745,267百万円 2023年3月期 711,917百万円

(注) 当社は2023年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産を算定しております。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	85.00	—	95.00	180.00
2024年3月期	—	47.50	—	—	—
2024年3月期（予想）	—	—	—	47.50	95.00

(注) 1 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2 当社は2023年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2023年3月期については、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

### 3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,098,500	3.4	80,000	6.1	78,000	5.2	51,000	△26.5	182.89

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

詳細は、[添付資料]16ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期2Q	293,459,000株	2023年3月期	296,739,000株
② 期末自己株式数	2024年3月期2Q	14,350,416株	2023年3月期	17,959,272株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期2Q	278,861,499株	2023年3月期2Q	281,688,872株

(注) 当社は、2023年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料]10ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算短信補足説明資料の入手方法について)

決算短信補足説明資料は決算短信に添付しT D n e t で開示しております。また、当社ホームページにも同日掲載いたします。

(アナリスト・機関投資家向け電話会議資料の入手方法について)

当社は、2023年11月14日（火）にアナリスト・機関投資家向けの説明会（会場、オンライン）を開催する予定です。この説明会におけるプレゼンテーション資料および音声情報は、当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	9
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	10
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	11
(1) 四半期連結貸借対照表	11
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	13
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	13
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	14
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	15
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	16
(継続企業の前提に関する注記)	16
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	16
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	16
(セグメント情報等)	16
(重要な後発事象)	18

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当社グループは「2023中期経営計画」の基本コンセプトである「明治ROESG<sup>®</sup>※経営の実践」に基づき、利益成長とサステナビリティ活動の同時実現に向けて取り組んでいます。

重点課題は以下の通りです。

#### 1. 事業戦略

- (食品セグメント) コア事業の成長力の回復  
海外展開の強化
- (医薬品セグメント) ワクチン事業の強化  
受託製造/受託製造開発 (CMO/CDMO) 事業の強化
- (グループ全体) 新領域への挑戦

#### 2. ROICの活用による経営管理体制強化

#### 3. 成長投資の継続と強固な財務基盤構築の両立

#### 4. サステナビリティ2026ビジョンの着実な実行

※「ROESG」は一橋大学・伊藤邦雄氏が開発した経営指標で、同氏の商標です。

2024年3月期は、新型コロナウイルス感染症による行動制限の緩和や賃金上昇などにより、人流および景気の緩やかな回復が期待されますが、国内の生乳取引価格や円安進行にともなう原材料価格およびエネルギーコストの上昇は依然として続いており、当社グループ業績にも影響する見通しです。

食品セグメントでは、原材料価格およびエネルギーコストの上昇に対して、価格改定などによりコスト上昇分を吸収します。また、価格改定による数量減の影響を最小限にとどめるべく、主力商品の価値訴求強化や積極的なマーケティング活動に取り組めます。加えて、海外では引き続き中国における生産販売能力を強化し、販売エリア拡大と高付加価値商品の売上拡大を目指します。米国においても、チョコレートスナックを中心に販路を拡大していきます。

医薬品セグメントでは、感染症領域に経営資源を集中し、ワクチンと感染症薬のトップ企業としての競争優位性確立に取り組めます。新型コロナウイルス感染症に対する不活化ワクチンとレプリコンワクチンの開発を進めるとともに、他のパイプラインの開発加速にも取り組めます。また、海外では、CMO/CDMO事業の強化・拡大に注力します。インドに完成した新製造棟における商業出荷に向けた準備を確実に進めるほか、生産性の向上にも取り組めます。

当第2四半期連結累計期間の売上高は 5,460億47百万円（前年同期比 5.5%増）、営業利益は 444億43百万円（同 2.9%増）、経常利益は 434億33百万円（同 1.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は 279億21百万円（同 16.4%減）となりました。

(単位：億円)

	2023年3月期 第2四半期累計	2024年3月期 第2四半期累計	対前年同期	
			増減額	主な増減要因
売上高	5,175	5,460	285	詳細はセグメント別の概況に記載
営業利益	431	444	12	詳細はセグメント別の概況に記載
営業外収益	23	18	△5	持分法による投資利益△6、為替差益+1
営業外費用	16	28	11	持分法による投資損失+15
経常利益	439	434	△4	—
特別利益	68	77	9	投資有価証券売却益+27、 関係会社株式売却益+16、 固定資産売却益△40
特別損失	24	31	6	関係会社株式売却損+5
税金等調整前 四半期純利益	483	480	△2	—
法人税等	134	176	42	—
非支配株主に帰属する 四半期純利益	14	24	10	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	333	279	△54	—

当社の事業子会社であるKMバイオロジクス株式会社とMeiji Seika ファルマ株式会社では、新型コロナウイルス感染症に対する不活化ワクチンの開発を進めています。第3相臨床試験（国際共同、成人40歳以下）を2022年4月に、また国内小児第3相臨床試験（6か月以上12歳未満）を2023年1月に、それぞれ開始しました。また、2023年10月に、承認に向けた最終段階となる変異株対応の国内小児第3相臨床試験（6か月以上13歳未満）の治験計画届を提出し、12月より被験者登録・接種を開始する予定です。

2023年4月に、Meiji Seika ファルマ株式会社は、Arcturus Therapeutics Inc. が開発した新型コロナウイルス感染症に対するレプリコンワクチン「ARCT-154」について、全世界における権利を保有するCSL Limitedの子会社であるCSL Seqirusと日本での供給・販売提携に関する契約を締結しました。同ワクチンについては、2023年4月に「成人における初回免疫（2回接種）によるCOVID-19の予防」を適応症として、日本における製造販売承認を申請しました。また、2023年6月に追加免疫についても製造販売承認を申請しました。

2023年9月には、新型コロナウイルスの起源株およびオミクロンBA.4-5株に対応する2価レプリコンワクチン「ARCT-2301」の追加免疫国内第3相臨床試験を開始しました。「ARCT-2301」を用いた臨床試験を通じてオミクロン株に対する免疫原性と安全性を確認するとともに、並行して今後の新規変異株に対応したレプリコンワクチンの実用化を目指します。

アストラゼネカ株式会社が日本へ導入している新型コロナウイルスワクチンについて、Meiji Seika ファルマ株式会社は安全性情報収集の業務を当第2四半期まで実施しました。

セグメント別の概況は次のとおりです。

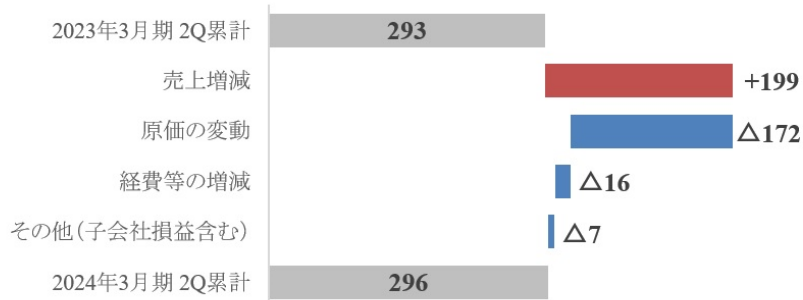
①食品セグメント

- ・売上高は、価格改定効果もあり前年同期を上回りました。全ての事業で前年同期を上回り、特に海外事業や業務用食品事業は大幅に上回りました。
- ・営業利益は前年同期を上回りました。価格改定効果が原材料コストの上昇や数量減の影響をカバーしました。

(単位：億円)

		2023年3月期 第2四半期累計	2024年3月期 第2四半期累計	対前年同期 増減率
食 品	売上高	4,206	4,454	5.9%
	営業利益	293	296	1.2%

営業利益増減分析 (単位：億円)



事業別の概況は次のとおりです。

(単位：億円)

売上高				営業利益			
	2023年3月期 第2四半期 累計	2024年3月期 第2四半期 累計	対前年同期 増減率		2023年3月期 第2四半期 累計	2024年3月期 第2四半期 累計	対前年同期 増減率
ヨーグルト ・チーズ	1,003	1,025	2.2%	ヨーグルト ・チーズ	120	126	4.8%
ニュートリ ション	595	648	8.8%	ニュートリ ション	86	92	6.8%
チョコレート ・グミ	435	447	2.7%	チョコレート ・グミ	32	33	4.1%
牛乳	368	383	4.2%	牛乳	△8	△11	—
業務用食品	328	376	14.5%	業務用食品	10	23	137.4%
フローズン ・調理食品	322	338	5.1%	フローズン ・調理食品	27	29	6.0%
海外	317	375	18.5%	海外	0	△10	—
その他 ・国内子会社	834	858	2.9%	その他 ・国内子会社	23	13	△40.4%

#### ヨーグルト・チーズ事業 (プロバイオティクス、ヨーグルト、チーズ)

- 売上高は前年同期を上回りました。プロバイオティクスは価格改定効果により増収となりましたが、ヨーグルトは第1四半期におけるドリンクタイプの減収の影響で前年同期並みとなりました。チーズは、需要拡大や販促強化を背景に、スライスチーズを中心に伸ばしました。
- 営業利益は前年同期を上回りました。原材料コストが増加しましたが、価格改定効果がコスト増や数量減の影響を上回りました。価格改定による数量への影響を最小化すべくマーケティング投資を強化しました。

#### ニュートリション事業 (乳幼児ミルク、スポーツ栄養、流動食、美容)

- 売上高は前年同期を上回りました。乳幼児ミルクは、価格改定効果に加え、インバウンド需要の拡大により好調に推移しました。外出機会の増加により液体ミルク「明治ほほえみらくらくミルク」が好調に推移しました。スポーツプロテイン「ザバス」は、粉末タイプではホエイプロテインが好調に推移しました。ドリンクタイプでは、たんぱく質配合量を20gに増量した新商品の発売などが寄与しました。
- 営業利益は前年同期を上回りました。原材料コストが増加しましたが、価格改定効果がコスト増や数量減の影響を上回りました。

#### チョコレート・グミ事業

- 売上高は前年同期を上回りました。チョコレートは、人流回復やインバウンド需要により大袋商品やナッツチョコレートが好調に推移しました。グミは、生産子会社譲渡による影響がありましたが、商品ラインアップの拡大などにより増収となりました。
- 営業利益は前年同期を上回りました。原材料コストが増加しましたが、価格改定効果がコスト増や数量減の影響を上回りました。

#### 牛乳事業

- 売上高は価格改定効果により前年同期を上回りました。
- 営業利益は、大容量品の数量減の影響などにより前年同期から損失額が拡大しました。

### 業務用食品事業

- ・売上高は前年同期を大幅に上回りました。人流回復により市場が拡大し、クリームやチーズ、バターなどが大幅な増収となりました。
- ・営業利益は、原材料コストや減価償却費などの製造間接費が増加しましたが、価格改定効果や数量増により前年同期を大幅に上回りました。

### フローズン・調理食品事業 (アイスクリーム、調理食品、バター・マーガリン類)

- ・売上高は前年同期を上回りました。アイスクリームは、主力の「明治エッセルスーパーカップ」が猛暑の影響もあり好調に推移しました。調理食品は、2023年2月に冷凍ピザを終売した影響により減収となりました。
- ・営業利益は前年同期を上回りました。価格改定効果が原材料コストや拡売費の増加を上回りました。

### 海外事業 (海外子会社、輸出)

- ・売上高は、前年同期を大幅に上回りました。中国の業務用事業やアイスクリーム事業、東南アジアや米国の子会社が好調に推移しました。
- ・営業利益は、前年同期を大幅に下回りました。米国の子会社は増益となりましたが、中国の子会社が2023年1月の天津工場稼働に伴う減価償却費の増加などにより減益となりました。

### その他・国内子会社 (国内独立系子会社、キャンデー、OTC)

- ・売上高は前年同期を上回りました。糖類を扱う商社などが好調に推移しました。
- ・営業利益は、原材料コストの増加による飼糧子会社の減益などにより、前年同期を大幅に下回りました。



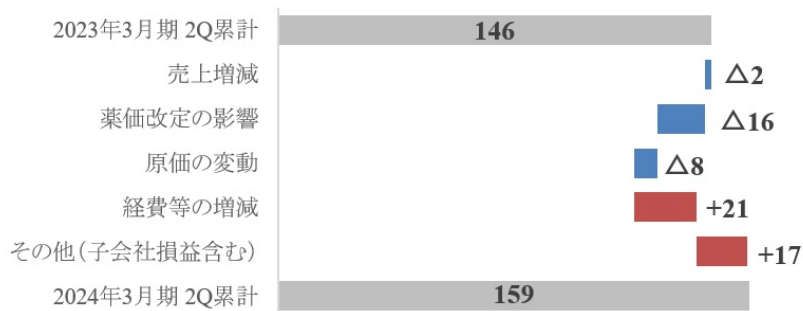
②医薬品セグメント

- ・売上高は前年同期を上回りました。国内医薬品事業と海外医薬品事業は前年同期を上回り、ヒト用ワクチン事業は前年同期並みとなりました。動物薬事業は前年同期を下回りました。
- ・営業利益は、海外医薬品事業とヒト用ワクチン事業の増益により、前年同期を上回りました。

(単位：億円)

		2023年3月期 第2四半期累計	2024年3月期 第2四半期累計	対前年同期 増減率
医薬品	売上高	971	1,008	3.8%
	営業利益	146	159	8.5%

営業利益増減分析 (単位：億円)



事業別の概況は次のとおりです。

(単位：億円)

売上高				営業利益			
	2023年3月期 第2四半期 累計	2024年3月期 第2四半期 累計	対前年同期 増減率		2023年3月期 第2四半期 累計	2024年3月期 第2四半期 累計	対前年同期 増減率
国内医薬品	475	503	5.8%	国内医薬品	54	51	△3.9%
海外医薬品	250	260	4.1%	海外医薬品	36	49	35.3%
ヒト用 ワクチン	192	193	0.4%	ヒト用 ワクチン	48	53	10.8%
動物薬	53	51	△3.4%	動物薬	7	4	△45.4%

### 国内医薬品事業

- ・売上高は前年同期を上回りました。抗菌薬「スルバシリン」や「メイアクト」に加え、血漿分画製剤が増収となりました。
- ・営業利益は、薬価改定の影響に加え、アストラゼネカ社の新型コロナウイルスワクチンに関する受託収入の減少や研究開発費の増加により前年同期を下回りました。

### 海外医薬品事業

- ・売上高は前年同期を上回りました。インドの子会社が減収となりましたが、スペインやタイの子会社が好調に推移しました。
- ・営業利益は前年同期を大幅に上回りました。スペインやタイの子会社の増収やインドの子会社の原価低減が寄与しました。

### ヒト用ワクチン事業

- ・売上高は前年同期並みとなりました。四種混合ワクチン「クアトロバック」は好調に推移しましたが、日本脳炎ワクチン「エンセバック」やB型肝炎ワクチン「ビームゲン」が減収となりました。2023/2024シーズンのインフルエンザワクチンの出荷は前年同期並みとなりました。
- ・営業利益は、ロイヤリティ収入が寄与したことなどにより、前年同期を大幅に上回りました。

### 動物薬事業（動物薬、動物用ワクチン）

- ・売上高は、品目数削減の影響を受け前年同期を下回りました。
- ・営業利益は、原材料コストの増加などにより前年同期を大幅に下回りました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(単位：億円)

	2023年3月期	2024年3月期 第2四半期累計	対前期末	
			増減額	主な増減要因
流動資産	4,709	5,380	671	受取手形及び売掛金+414、 現金及び預金+185
固定資産	6,652	6,697	44	土地+81、投資有価証券+62、 建設仮勘定△101
資産合計	11,362	12,077	715	—
流動負債	2,662	3,025	363	短期借入金+199、 支払手形及び買掛金+116、 未払法人税等+46
固定負債	1,186	1,185	△1	長期借入金△20、退職給付に係る負債+6
負債合計	3,849	4,211	362	—
株主資本	6,651	6,808	156	利益剰余金+146
その他の包括利益 累計額	467	644	176	為替換算調整勘定+127、 その他有価証券評価差額金+45
非支配株主持分	393	414	20	—
純資産合計	7,513	7,866	353	—
負債純資産合計	11,362	12,077	715	—
有利子負債	643	823	179	短期借入金+199
自己資本比率	62.7%	61.7%	△1.0pt	—

②キャッシュ・フローの状況

(単位：億円)

	2023年 3月期 第2四半期 累計	2024年 3月期 第2四半期 累計	対前年 同期 増減額	主な増減要因
営業活動による キャッシュ・フロー	251	258	7	棚卸資産の増減額+114、仕入債務の増減額+90、 法人税等の支払額+64、売上債権の増減額△227、 投資有価証券売却損益△27
投資活動による キャッシュ・フロー	△259	△153	106	有形固定資産の取得による支出+86、 連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入+35
財務活動による キャッシュ・フロー	202	43	△159	短期借入金の純増減額△166
現金及び現金同等物 の四半期末残高	887	784	△103	—
フリー・ キャッシュ・フロー	△8	105	113	—

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2023年11月7日の「連結業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想数値に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	63,519	82,063
受取手形及び売掛金	173,001	214,480
商品及び製品	120,779	123,953
仕掛品	5,371	6,171
原材料及び貯蔵品	73,405	74,246
その他	34,917	37,225
貸倒引当金	△73	△100
流動資産合計	470,919	538,040
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	357,771	358,208
減価償却累計額	△175,987	△177,010
建物及び構築物 (純額)	181,783	181,197
機械装置及び運搬具	579,612	588,997
減価償却累計額	△414,059	△420,595
機械装置及び運搬具 (純額)	165,552	168,402
工具、器具及び備品	59,450	59,470
減価償却累計額	△46,731	△47,216
工具、器具及び備品 (純額)	12,718	12,253
土地	69,486	77,597
リース資産	2,522	2,815
減価償却累計額	△1,932	△2,092
リース資産 (純額)	590	723
建設仮勘定	57,623	47,480
有形固定資産合計	487,755	487,654
無形固定資産		
のれん	11	3
その他	21,485	21,829
無形固定資産合計	21,496	21,833
投資その他の資産		
投資有価証券	112,649	118,862
退職給付に係る資産	21,733	22,283
繰延税金資産	14,412	11,425
その他	7,313	7,771
貸倒引当金	△63	△75
投資その他の資産合計	156,046	160,267
固定資産合計	665,298	669,756
資産合計	1,136,217	1,207,796

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	112,312	123,979
短期借入金	4,874	24,827
1年内償還予定の社債	10,000	10,000
未払費用	34,994	36,188
未払法人税等	11,299	15,988
契約負債	870	535
返金負債	18,052	18,593
賞与引当金	11,375	10,429
その他	62,478	62,053
流動負債合計	266,258	302,597
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	39,496	37,482
繰延税金負債	5,497	5,397
退職給付に係る負債	56,255	56,877
役員退職慰労引当金	76	73
その他	7,322	8,681
固定負債合計	118,647	118,513
負債合計	384,905	421,110
純資産の部		
株主資本		
資本金	30,000	30,000
資本剰余金	80,609	72,409
利益剰余金	602,042	616,662
自己株式	△47,502	△38,229
株主資本合計	665,149	680,842
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	31,598	36,106
繰延ヘッジ損益	11	185
為替換算調整勘定	17,870	30,663
退職給付に係る調整累計額	△2,713	△2,530
その他の包括利益累計額合計	46,767	64,425
非支配株主持分	39,394	41,418
純資産合計	751,311	786,685
負債純資産合計	1,136,217	1,207,796

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	517,520	546,047
売上原価	362,045	383,541
売上総利益	155,474	162,505
販売費及び一般管理費	112,281	118,061
営業利益	43,193	44,443
営業外収益		
受取利息	164	239
受取配当金	787	735
持分法による投資利益	628	—
為替差益	—	139
その他	785	710
営業外収益合計	2,366	1,824
営業外費用		
支払利息	241	202
持分法による投資損失	—	1,521
その他	1,404	1,110
営業外費用合計	1,646	2,834
経常利益	43,912	43,433
特別利益		
固定資産売却益	5,513	1,474
投資有価証券売却益	249	3,036
関係会社株式売却益	1,068	2,720
その他	11	534
特別利益合計	6,843	7,766
特別損失		
固定資産廃棄損	1,553	1,872
関係会社株式売却損	—	501
その他	899	772
特別損失合計	2,453	3,147
税金等調整前四半期純利益	48,303	48,053
法人税等	13,448	17,651
四半期純利益	34,854	30,401
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,468	2,479
親会社株主に帰属する四半期純利益	33,386	27,921

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	34,854	30,401
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,188	4,467
繰延ヘッジ損益	△5	177
為替換算調整勘定	15,346	10,955
退職給付に係る調整額	1,158	148
持分法適用会社に対する持分相当額	7,158	2,035
その他の包括利益合計	22,468	17,783
四半期包括利益	57,323	48,185
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	55,704	45,578
非支配株主に係る四半期包括利益	1,618	2,606



(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	48,303	48,053
減価償却費	26,192	26,871
減損損失	239	129
のれん償却額	7	7
有形固定資産除却損	1,554	1,856
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△15	31
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△1,006	△858
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	2,141	366
受取利息及び受取配当金	△951	△974
支払利息	241	202
持分法による投資損益 (△は益)	△628	1,521
有形固定資産売却損益 (△は益)	△5,460	△1,466
関係会社株式売却損益 (△は益)	△1,068	△2,218
投資有価証券売却損益 (△は益)	△249	△3,028
売上債権の増減額 (△は増加)	△17,188	△39,918
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△14,405	△2,926
契約負債の増減額 (△は減少)	△3,500	△346
仕入債務の増減額 (△は減少)	725	9,734
その他	4,698	△2,331
小計	39,627	34,705
利息及び配当金の受取額	2,022	1,176
利息の支払額	△246	△230
法人税等の支払額	△16,242	△9,751
営業活動によるキャッシュ・フロー	25,160	25,899
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△32,002	△23,333
無形固定資産の取得による支出	△1,592	△1,719
有形及び無形固定資産の売却による収入	7,884	1,721
投資有価証券の取得による支出	△60	△285
投資有価証券の売却による収入	348	3,699
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	1,944	5,459
連結の範囲の変更を伴う子会社出資金の売却による支出	-	△372
その他	△2,494	△485
投資活動によるキャッシュ・フロー	△25,972	△15,316
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	36,447	19,845
長期借入金の返済による支出	△2,165	△2,095
自己株式の増減額 (△は増加)	506	1,067
配当金の支払額	△12,653	△12,836
非支配株主への配当金の支払額	△1,430	△676
その他	△435	△950
財務活動によるキャッシュ・フロー	20,269	4,353
現金及び現金同等物に係る換算差額	4,416	2,548
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	23,874	17,484
現金及び現金同等物の期首残高	64,872	60,939
現金及び現金同等物の四半期末残高	88,746	78,423

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間（自2022年4月1日 至2022年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	食品	医薬品			
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	420,352	97,167	517,520	—	517,520
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	278	13	292	△292	—
計	420,631	97,181	517,812	△292	517,520
セグメント利益	29,329	14,649	43,979	△786	43,193

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△786百万円には、セグメント間取引消去17百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△804百万円が含まれております。全社費用は当社（持株会社）運営に係る費用等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

重要な負ののれん発生益はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自2023年4月1日 至2023年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	食品	医薬品			
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	445,196	100,850	546,047	—	546,047
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	293	9	303	△303	—
計	445,489	100,860	546,350	△303	546,047
セグメント利益	29,684	15,902	45,586	△1,142	44,443

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△1,142百万円には、セグメント間取引消去12百万円、各報告セグメントに  
配分していない全社費用△1,155百万円が含まれております。全社費用は当社（持株会社）運営に係  
る費用等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

重要な負ののれん発生益はありません。

(重要な後発事象)  
該当事項はありません。